

# 2016年中央会新年会



2016年の新年会並びに新春講演会を、1月20日(水)、前橋商工会議所会館において開催。朝から雪が降る中、大澤知事をはじめ、国会議員、県議会、行政機関、金融機関、友好団体等の来賓を含め、総勢150人余が出席し、新しい年の訪れを祝いました。

新年会では、初めに金子正元会長が「我々、中小企業・小規模事業者は、原材料価格の上昇、収益圧迫や人材確保難、消費税対策などの課題に直面し、TPPや中国をはじめとする新興国経済の減速など先行きにも不安を抱えた状況にある。こうした中、群馬県で検討・整備が進められているコンベンション施設については、本県地域社会に活力をもたらす拠点として、早期の整備を期待するところである。



金子会長

国の平成27年度補正予算についても『ものづくり補助金』が継続される予定で、引き続き本事業に積極的に関わっていきたいと考えている。本年も関係機関との連携を深めながら、中小企業組合等連携組織の専門支援機関としての役割を果たし、県内経済の好循環の実現に向けて貢献できるよう諸事業に取り組んでいく」と挨拶。

続いて、群馬県知事大澤正明氏が登壇し、「群馬県は交通の利便性が高まってきた。高速道路の整備が進み、北陸新幹線は金沢まで延伸した。まさに、『人・物・情報』を群馬に呼び込む絶好のチャンス。この機会をしっかりと受け止め、群馬県の力を高めていく。



大澤知事

また、都市力をアップさせ、新たな産業や雇用を生み出し、若者や女性が活躍できる場をしっかりと確保していく。今、人口減少問題に対する総合戦略を策定している。東京から、いかに群馬に呼び込むかということを官民が一体となつて考えて、子供たちが群馬で働ける環境をしっかりと整備することが大事だと思っている。

群馬県も今年が人口減少問題に向けての新たなスタートの年となるように、しっかりと取り組んでいく」と新たな発展に向けた決意を述べた。

次いで、群馬県議会議長の岩井均氏、日本銀行前橋支店長の神山一成氏、群馬県商工会議所連合会会長の曾我孝之氏から祝辞を頂戴した。

岩井氏は「大澤知事を先頭として、群馬県の来年度の予算編成作業が進行中。県税収入を見ると、来年度は、今年度より増収をする見込みで、2,500億円に近付くような状況になってきた。この中心は、法人事業税の増収で、皆様からお預かりした税である。これを群馬県発展のために、しっかりと活用するため、県議会も全力を尽くしていく」と力強く語った。



県議会・岩井議長

神山氏は「年初より、株安が進み金融市場の動揺で1年が始まったが、県内経済は、緩やかな回復基調がしっかり続いている。企業収益が回復する中で設備投資が増加、家計所得も増える中で個人消費も好調と、企業部門・家計部門

ともに好循環が働いている。ただ、緩やかな景気の回復基調に満足せず、やはり経済をもう一段高いところへ持っていきたい、中小企業の方にも、しっかりと景気回復を実感して頂かなければいけないと思う。



日銀前橋支店・神山支店長

日本銀行前橋支店は、地域の金融機関とともに、企業と金融機関との二人三脚関係をしっかりと進めて参りたいと考えている」と力強く語った。

曾我氏は、「アベノミクスが実を結んでいくためには、地方の企業が元気になるにはいけない。本日、東京で群馬県産業経済部



会議所連合会・曾我会長

が中心となり『ぐんま地場産業フェスタ』が行われた。大変多くの意欲ある企業が参加し、昨年に比べて、なんと32社も多い。積極的に参加して力強い群馬を作っていくことこそ、今、大事だと思つて人口減少傾向の中、群馬県の人気が減らないように、商工3団体の力を合わせてやっていきたい」と抱負を語った。

来賓紹介の後、鏡開きを行い、群馬銀行頭取齋藤一雄氏が乾杯の発声を行った。



群馬銀行・齋藤頭取

和やかな雰囲気の中で懇親が深められ、吉田勝彦副会長の中締め挨拶をもって懇親会を終えた。



吉田副会長



# 組合女子職員研修会



充填室見学の様子

まずはビデオを視聴し、その後製造室・充填室・研究室を見学した。ビデオ映像で紹介のあった衛生管理の様子を実際に見ることができ、参加者からは驚きの声が上がった。



自社製化粧品が並び

11月12日、恒例の組合女子職員研修会を開催した。今回は、千葉県松戸市のハイム化粧品株式会社、東京都葛飾区の柴又帝釈天・彫刻ギャラリー・邃溪園を見学した。ハイム化粧品株式会社は「良い品をより安く」を経営理念に1961年に誕生した化粧品メーカー。

続いて、彫刻ギャラリー及び邃溪園を見学し、彫刻ギャラリーには法華経の説話や十二支の彫刻が刻まれ、参加者は彫刻の細やかさなどに興味深く見入っていた。



帝釈天を背景に記念撮影

施設見学後には、ハイム化粧品株式会社の椋平氏を講師にヘッドマッソー講習会が行われ、参加者をモデルに頭皮ケア商品を使用した実演を受け、効果的なヘッドマッソーの方法を体験した。(タイトル左の写真)  
次に見学した柴又帝釈天は、正式名称を「経栄山題経寺」といい1629年開山とされる日蓮宗派の寺院。本尊は日蓮上人が自ら刻んだとされる帝釈天の板仏であり、江戸時代から帝釈天の名で庶民に親しまれている。

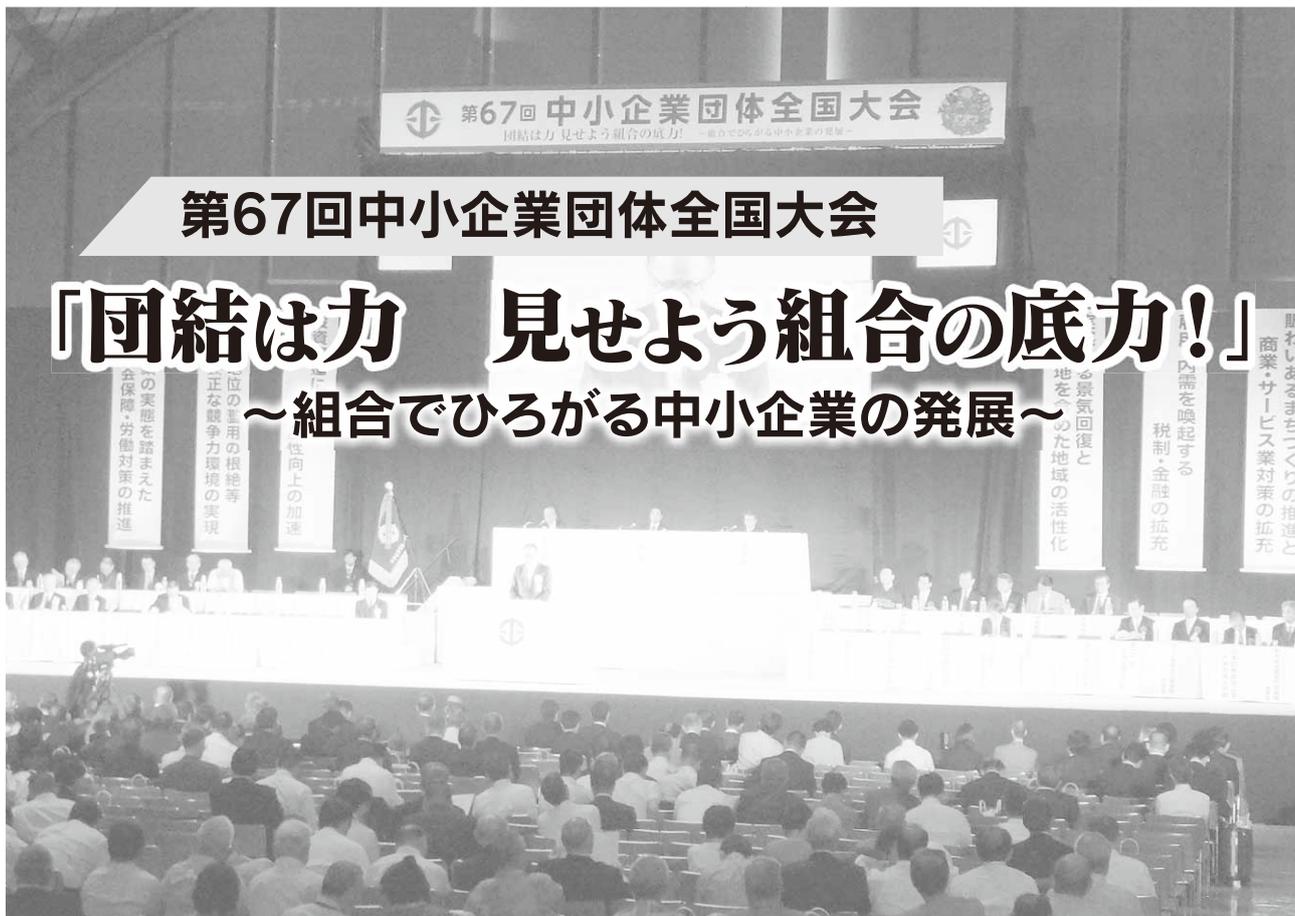
◎研修を終えて  
女性活躍がうたわれている昨今ですが、以前より活躍されている女子職員の方々には今回の研修が良いリフレッシュに繋がったのではと感じました。



商店街の様子(上)  
柴又駅前に設置されている寅さん像(右)



邃溪園は1965年に完成した回廊式の庭園であり「江戸最後の名庭」と言われている。整えられた草木や流れる水の情景は参拝者に安らぎを与え、庭園内ではゆったりとした時間を過ごすことができる。(タイトル右の写真)  
その後は柴又駅まで続く参道沿いの商店街を各自散策した。



## 第67回中小企業団体全国大会

# 「団結は力 見せよう組合の底力！」

～組合でひろがる中小企業の発展～



セレモニーの琉球舞踊

大会は、オープニングセレモニーとして琉球舞踊が披露された後、宮里一郎沖縄県中央会副会長の開会宣言で幕を開けた。大村功作全国中央会会長が挨拶、次に津波古勝三沖縄県中央会会長及び佐喜眞淳宜野湾市長が歓迎挨拶を行った。

「団結は力 見せよう組合の底力！」をスローガンに、第67回中小企業団体全国大会が11月20日、沖縄県宜野湾市「沖縄コンベンションセンター」において開催されました。政府をはじめ関係各方面より多数の来賓を招き、全国から中小企業団体の代表者2,300名が参集し、「景気対策、被災地を含めた地域の活性化」、「生産性の向上」、「持続的成長の促進」について14項目からなる大会決議を採択しました。



大村功作全国中央会会長

次いで行われた表彰式では、優良組合33組合、組合功労者71名、中央会優秀専従者29名が表彰された。本県からは、優良組合として高崎機械工業協同組合、組合功労者として群馬県生コンクリート工業組合小林美知夫理事長がその栄誉に浴された。中央会優秀専従者としては芳賀勝則総務情報課長補佐が受賞した。

表彰後に休憩を挟み、セレモニーとして琉球舞踊が披露され、翁長雄志沖縄県知事から歓迎の挨拶が述べられた。次いで来賓が紹介され、来賓を代表して、星野剛



組合功労者  
小林美知夫氏  
(群馬県生コンクリート  
工業組合理事長)



優良組合  
高崎機械工業協同組合  
(理事長 町田一明氏)

土経済産業大臣政務官、とかしき  
なおみ厚生労働副大臣、伊東良孝  
農林水産副大臣、島尻安伊子内閣  
府特命担当大臣、杉山秀二商工中  
金代表取締役社長が祝辞を述べ  
た。  
続いて、議長及び副議長の選任  
が行われ、議長に津波古勝三沖縄  
県中央会会長、副議長に山出保石  
川県中央会会長、野田二郎熊本県  
中央会会長が選任された。議事  
では14項目からなる大会決議案が一  
括上程され、小正芳史鹿児島県中  
央会会長が意見を発表した。



大会旗の継承

議案審議中、京都府の参加者が、  
決議事項を国に要望した成果を組  
合にしっかりと伝えてほしい旨を  
発言した。これに対し大村功作全  
国中央会会長は、要望の成果は各  
県中央会に書類を送付することで  
周知しているが、より広く成果が  
伝わるよう今後も周知方法を検討  
していく旨を回答した。  
審議の結果、決議案は満場一致  
の賛同を得て採決された。  
次に、政党を代表して、茂木敏  
充自由民主党選挙対策委員長、富  
田茂之公明党経済産業部会長が政

党を代表して挨拶した。

続いて、石川誠司沖縄県中小企  
業青年中央会会長が決意新たに大  
会宣言を高らかに掲げた。

その後、来年度は平成28年10月  
19日、石川県金沢市・いしかわ総  
合スポーツセンターにおいて開催

することが発表され、大会旗が山  
出保石川県中央会会長に継承され  
た。

最後に、高田坦史中小企業基盤  
整備機構理事長が万歳三唱をし、  
島袋武沖縄県中央会副会長が閉会  
挨拶を述べて閉会となった。

## 第67回中小企業団体全国大会決議項目

### I 景気対策、被災地を含めた地域の活性化

- 1 景気対策、被災地を含めた地域の活性化
- 2 中小・小規模事業者の持続的発展
- 3 福島・被災地の復興の加速化

### II 生産性の向上

- 4 組合等連携組織等を活用した生産性の向上の強化
- 5 海外展開の推進
- 6 電力コストの軽減等に向けた環境・エネルギー対策の強化
- 7 公正な競争環境の整備
- 8 官公需対策による経営支援の強化
- 9 中央会等支援体制の整備・強化

### III 持続的成長の促進

- 10 資金調達の円滑化等
- 11 投資等を促進する税制の拡充
- 12 まちづくりの推進、商業対策の拡充強化
- 13 社会保障制度の見直し
- 14 中小企業の実態を踏まえた労働・教育対策の推進



# 外国人技能実習制度適正化講習会

12月8日（火）、前橋市・マリーキュリーホテルにおいて外国人技能実習生を受け入れている組合担当者等を対象に講習会を開催した。

講習会は「実務運営面」と「制度面」という内容に分けて2部構成で行った。

はじめに「実務運営面」という視点から名古屋国際総合事務所代表田澤満氏より説明があった。



田澤満氏

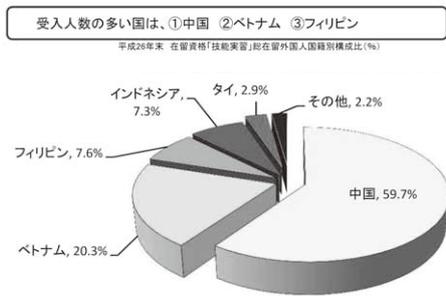
平成22年に現在の外国人技能実習制度がスタートし、入管法や労働基準法違反は減少する中、新たな問題も発生し、監理団体及び実習実施機関の不正行為は年々増加傾向にあると述べた。また、近年、外国人技能実習生の送出し国は中国をはじめ、韓国、ベトナム、ミャンマーなど多様化していると説明。そこで、国ごとのトラブルの特徴について事例を交えて紹介し、トラブル予防のための労務管理の重要性を説いた。

続いて、「制度面」という点で全国中小企業団体中央会西津康久氏より説明があった。



西津康久氏

現在、企業では約18万人の技能実習生を受け入れ、国籍別にみると中国がトップだが、ベトナムが増加傾向にあると述べた。



(法務省データ)

また、国で検討されている技能実習制度の見直しについて触れ、現段階では、全くの未定であると強調しつつ、方向性について言及した。

基本的な考え方としては、優良な監理団体への受入期間・人数の拡大措置を認める一方、不適正団体を排除するといった管理監督体制の強化であると説明した。



熱心に聞き入る参加者

さらに、監視機構として外国人技能実習機構（仮称）を新たに設置することにも触れ、技能実習制度の趣旨の再確認と、更なる体制整備の強化に努め、本制度の適切な実施を心掛けて欲しいと呼びかけた。

### ◎講義を終えて

制度の見直しについては、通常国会で法案が審議され、順調に審議が進めば、5月～6月に法案成立する見通しとなるようです。今後も情報提供に努めます。

群馬県中小企業団体事務局長会 冬季研修会

「快眠へと誘う『眠活メソッド』」



群馬県中小企業団体事務局長会（田部井俊勝会長、42会員）では、12月10日、高崎市・ホテルメトロポリタン高崎において、冬季研修会を開催した。

今回は、「快眠へと誘う『眠活メソッド』」をテーマに、睡眠コンサルタントの友野なお氏を講師に招き、講演を行った。



友野なお氏

友野氏は、今や日本人の現代病ともいえる不眠などの睡眠障害について、スマートフォンの普及等の社会環境が背景にあることを挙げた。その上で、自身が体質改善に成功した経験から提唱する『眠活メソッド』について、①就寝前、②就寝中、③起床後の3点に分けてそれぞれ解説を行った。

初めに、就寝前について、「リラックスは睡眠の質を高める上で非常に重要である反面、現代人はリラックスをすることが非常に苦

手。アロマオイルやストレッチ等で自分に合った睡眠の導入方法を確立することが非常に有効」と述べた後、筋肉の緊張と弛緩を繰り返すことにより、身体をリラックスさせる筋弛緩法を用いたストレッチをレクチャーした。

次いで、就寝中については『光』を重要なキーワードとして挙げつつ、「就寝1時間前には150ルクス以下の暖色系の薄明かりにし、就寝時には真つ暗に近い明るさで眠るのがよい」と解説した。

最後に、起床後のポイントについては、「25時間周期とされる人間の体内時計をリセットするために太陽の光を浴びることが大切」、「タンパク質を豊富に含む朝食を摂ることで一日の活動を支えるだけでなく、睡眠の質を高めることができる」とし、研修会を締めくくった。

◎ 研修を終えて

講演後の質疑応答では多くの参加者から睡眠に関する質問が寄せられ、睡眠への関心の高さが窺えました。この研修会が睡眠の質を高めるきっかけになればと思います。

# 群馬県中小企業団体青年協議会 研修会・忘年会

群馬県中小企業団体青年協議会（久保田雅幸会長、29会員）は、12月16日、伊香保町において、研修会・忘年会を開催した。

伊香保ビジターセンターで行われた研修会では、「青年部間連携・交流機能の活用法」新たなビジネスチャンスを展開するために」をテーマに、全国中小企業青年中央会会長の佐藤康氏を迎え研修会を行った。



佐藤康氏

佐藤氏は、初めに、全国中小企業青年中央会について、「会員の活発な交流、情報の共有を促しながらビジネス連携を深化させ、組合青年部と企業の繁栄に寄与することが目的である」と述べ、それには「全国中小企業団体中央会の正式な下部組織となり、青年部の強化を図ると同時に各県青年部の温度差の解消も行った」と語った。その後、自身が代表を務める「岩手塾」の取り組み内容等を説

明した。岩手塾は岩手の観光を中心とし、各分野や地域を超え、岩手全域の魅力を学び、岩手を盛り上げようと取り組む県内の若手経営者の集まりである。震災にも負けず、岩手の魅力を絶えず発信していると紹介した。

最後にインバウンド消費について解説し、「話題となっている量販店の大量購入だけでなく、日本の伝統工芸品をオンラインワン商品として数百万の買い物を行う一点豪華主義も見られるので、伝承が困難になっている伝統工芸を絶やさずに、海外に目を向けた日本の文化の発信も重要」と述べた。

また「群馬は外国人の注目度も高い『温泉』という素晴らしいブ



研修会の様子

ランドを所持しており、自らのブランドを理解・発信し地域活性化を行って欲しい」と締めくくった。

研修会終了後には、伊香保温泉の「横手館」において、忘年会を開催した。久保田会長、来賓の商工中金前橋支店長の松尾悟志氏、本会専務理事の中山正司が挨拶を行い、全青中会長の佐藤氏の音頭で乾杯を行った。終始和やかな雰囲気交流・懇親が図られ、盛会裏に終了となった。



忘年会の様子

## ◎研修会を終えて

厳しい経営環境を生き抜くためにも、他者との連携や交流は非常に重要だと感じました。各青年部の今後の取り組みの一助になればと思います。